

死亡診断書（死体検案書） 作成問題

以下の症例について、それぞれ死亡診断書あるいは死体検案書を作成して下さい。

なお、事案、市町村番地、名称等は架空のものです。

問題 1

○高 秀△ 女性 昭和 50 年 8 月 2 日生

（事例の概要）

令和 7 年 1 月 19 日午前 8 時ごろ、凸凹病院（徳島県徳島市徳島町 1 丁目 5 番地）5 階のトイレ個室で、洗濯ひもを手すりにつけ縊死しているところを発見された。索状物は、前頸部をほぼ水平に走り、左右乳様突起先端の下方 3cm の高さにかかっていた。臀部・下肢背面が床面に接している。尿失禁あり。死者は、この病院の通院・入院患者ではなく、病院職員でもなかった。家族宛ての遺書を所持していた。既往歴：5 年前よりうつ病。

同日午前 10 時より、死体検案を行った。

（死体所見）

体格やや小、栄養中等。硬直は全身強。死斑は、下腹部、腰部、下肢に暗紫赤色に強く発現し、指圧で容易に消褪する。直腸温は 30 度（室温 20 度）。両眼は開き、角膜は軽度混濁。左右眼瞼結膜および眼球結膜には、蚤刺大溢血点ならびに粟粒大出血斑多数を認める。頸部には、索状物の走行に一致して、やや革皮様化した表皮剥脱からなる索溝を認め、米粒大水泡数個を伴っている。その他の部に、損傷等の異常を認めない。

問題 2

△村　○助　こと　金　○哲　　男性　　昭和 28 年 9 月 16 日生

（事案の概要）

令和 7 年 1 月 19 日午前 7 時 30 分ごろ、自家用車を運転中、右カーブにて道路左側の商店（徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜 170）に突入し、車両が停止した。通行人が運転席内で意識のない本人を発見し、119 番通報。近くの救急病院（徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜 2 4 番地 7・金時わかめ病院）に搬送された。病院到着時心肺停止状態で、蘇生術が行われるが心拍の再開はなく、同日午前 8 時 45 分死亡確認された。なお、発見時本人はシートベルトを着用しており、車両は軽度に変形したのみであった。朝食後より、妻に胸背部痛を訴えていたという。

既往歴：健診で高血圧を指摘されたことはあったが、通院歴はなし。

同日午後 1 時より、死体検案を行った。

（死体所見）

体格、栄養ともに中等。硬直は、顎・項・肩・肘・股・膝関節で強く、その他の関節では軽度発現している。外表検査では、蘇生術に伴う四肢の針痕や胸部のカウンターショック痕の他、明らかな損傷等の異常を認めない。

また、処置中に行われた CT 検査において、心嚢内の血液貯留と大動脈弓部を中心とした解離を認めた。

問題 3

○本 △朗 男性 昭和 40 年 10 月 4 日生

(事例の概要)

令和 7 年 1 月 19 日午前 6 時頃、散歩中の人から公園（徳島市庄町 1 丁目 76 番地の 2）内のベンチで、仰臥位で死亡しているところを発見された。着衣に乱れはないが、吐しゃ物の固着と尿失禁がみられた。所持していた運転免許証から身元が判明し、死体発見現場から歩いて約 20 分のところに住む会社員であった。職場の人の話では、前日は普段と変わりなく午後 7 時ごろに退社したという。家人の話では、数日前から上腹部痛を訴えていたという。

既往症：2 年前頃から高脂血症、高血圧症

同日午前 10 時より、死体検案を行った。

(死体所見)

体格、栄養とも中等。硬直は全身強。死斑は背面非圧迫部に紫赤色に発現し、指圧により消褪する。直腸温は 25 度（外気温 18 度）。角膜は軽度に混濁し、瞳孔は円形で左右とも 6mm。全身に、損傷等の異常を認めない。後頭穿刺で、髄液透明。

問題 4

△根 ○知子 女性 昭和 12 年 7 月 21 日生

(事例の概要)

令和 7 年 1 月 2 日午後 3 時ごろ、自宅（徳島県名西郡石井町石井字石井 2202-1）の浴槽内で死亡しているのを、年始の挨拶に訪れた長男が発見した。引き上げる前に顔面が水に浸かっていたかどうか、よく覚えていないという。

独りで暮らしており、アパート 5 棟のオーナーで、大地主であったという。

紅白歌合戦終了後に友人と電話で新年のあいさつを交わしていたという。

バブル崩壊後の不況のため、地価は年々下落し、昨年と本年では、路線価格の変更があった。

既往症：冠状動脈硬化症、入院歴あり

同日午後 5 時ごろより、死体検案を行った。

(死体所見)

硬直の発現を認めず、直腸温は浴槽内の水の温度と同じ。死斑は、下肢背面、臀部に紫赤色に発現し、ピンセット柄圧にて消褪する。瞳孔透視不能。全身の皮膚の諸所に軽度の水疱を認める。鼻口腔内には赤褐色液を多量に容れる。後頭穿刺で、髄液は透明。

問題 5

○川 △男 男性 昭和 48 年 12 月 7 日生

(事案の概要)

令和 7 年 1 月 19 日午後 2 時 25 分ごろ、徳島阿波踊り空港（徳島県板野郡松茂町豊久字朝日野 16 番地 2）北岸で、乗用車が海に転落するのを釣り人が発見した。乗用車を引き揚げたところ、シートベルトを着用した状態で運転席にて死亡しているのを発見された。

死者は乗用車の所有者であることが確認され、同日未明より所在不明となっていた。家族の話によると、借金問題で悩んでいたという。

既往症：特になし。

同日午後 8 時より、死体検案を行った。

(死体所見)

体格中等、栄養やや貧。硬直は顎でやや強、その他の関節で弱。死斑は、背面非圧迫部で紫赤色に発現し、指圧で消褪する。両眼瞼結膜は高度に充盈し、溢血点を少数認める。鼻口部より、多量の白色泡沫液を漏らす。胸腔穿刺を行ったところ、左右胸腔内に淡赤色液の貯留を認める。全身に、明らかな損傷を認めない。

問題 6

氏名不詳 男性 40－60 歳（推定）

（事案の概要）

令和 7 年 1 月 19 日午前 10 時 35 分、高知県室戸岬沖約 80km を震源とするマグニチュード 8.5 の大地震（令和 7 年南海大震災）が発生した。徳島県内では最大震度 7 を観測し、建物倒壊ならびに津波襲来により、多数の死者・行方不明者が出ている模様である。

1 月 21 日午後 0 時ごろ、建物損壊の著しいパチンコ店「パチンコたぬき」（徳島県小松島市日開野町字崎田 26）において被災者の救出・捜索活動中の自衛隊員が、仰臥位で鉄骨の下敷きになった死者を発見した。身元判明につながる物品を所持しておらず、検案時の身元は不詳である。なお、発見場所の近辺には津波は到達していない。

同日午後 3 時ごろから、検案を行った。

（死体所見）

体格・栄養ともに良。硬直は全身で強（損傷部を除く）。死斑は、背面非圧迫部に淡赤紫色に弱く発現し、圧により消褪しない。胸腹部に、幅約 20cm の圧迫痕を認め、胸郭に多数の骨折を触知する。腋窩部、上胸部の皮下を中心として、気腫を触知する。顔面は高度にうつ血し、眼瞼結膜ならびに眼球結膜に出血斑を認める。

問題 7

地震で、津波に流された場合